

早稲田大学審査学位論文

博士（人間科学）

eラーニングとピア・レスポンスを組み合わせた  
ブレンド型授業の文章作成力に及ぼす効果

The Effect of Writing Class Using  
Blended e-Learning and Peer Response  
on Writing Performance

2012年1月

早稲田大学大学院 人間科学研究科

富永 敦子

TOMINAGA, Atsuko

研究指導教員： 向後 千春 准教授

本論文は、大学における文章作成授業の新しい授業形態として「eラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型授業」を設計・実践し、その学習効果について明らかにすることを目的とした。ピア・レスポンスとは、学習者同士で互いの文章について検討し合う学習活動である。本論文は、以下の三つから構成される。一つ目はブレンド型授業設計のための予備研究（第2章）、二つ目はeラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型授業の設計（第3章）、三つ目は第3章で設計したブレンド型授業の実践とその学習効果の検討（第4章）である。

第2章の予備研究（研究1～研究3）では、ブレンド型授業（eラーニング+教室でのグループワーク）を設計する際の留意点を探った。まず研究1では、実験環境において3種類の授業形態による授業を行い、学習効果について比較した。研究2では、実際の授業において、eラーニングとグループワークによるブレンド型授業を行い、授業形態に対する好みと学習効果との関係を検討した。研究3では、ブレンド型授業に対する指向性およびeラーニングに対する指向性を測定するための質問紙を作成・実施した。研究1～研究3の結果、テスト結果に有意な差はなく、どの授業形態も理解度は同程度であった。また、eラーニングとグループワークをブレンドさせることにより、eラーニングの短所が軽減されるとともに、ブレンド型授業に対する評価が高まることが明らかになった。このことから、学習者の多くはブレンド型授業に適応できることが示唆されたが、一方でeラーニングに適応しにくい学習者がいることも示唆された。

第3章では、第2章で明らかになったブレンド型授業の留意点に配慮しながら、eラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型授業（図1参照）を設計した。各単元の流れは、宣言的知識と手続き的知識の相互作用（Gagné, E. D. 1985）が機能するように設計した。まずeラーニングで文章に関する知識や技能、すなわち宣言的知識を学ばせ、練習問題を書くことにより文章をどのように書くのかという手続き的知識を学ばせた。次に、ピア・レスポンスでフィードバックを受けることにより、宣言的知識を再学習させ、理解を深められるようにした。フィードバックをもとに、練習問題を修正させることにより、手続き的知識を再学習させた。最後に、教師フィードバックにより、ピア・レスポンスでは解決できなかった点を指摘できるように設計した。

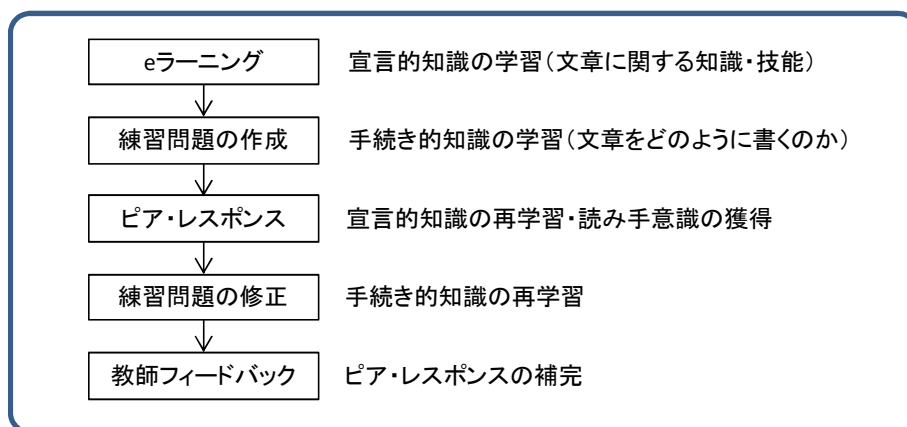


図1 eラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型授業モデル

第4章の研究5では、私立X大学の初年次生を対象にeラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型授業を実践した。その結果、文章作成技能のうち、「文章の型」「必要な内容」「わかりやすい順番」については向上したが、eラーニングでは扱っていなかった「正しい文法・表現」は向上しなかった。また、学習者はピア・レスポンスで毎回初対面の人と話すことに苦痛や困難を覚えることが明らかになった。

そこで、研究6、研究7では、これらの問題点を改善し、その効果を検証した。研究6では、ピア・レスポンスのメンバーを対人関係能力によって固定化し、またアイスブレイクを行い、メンバー同士が親しくなれる機会を設けた。その結果、学習者はすべてのピア・レスポンスに対して高い満足度を示した。研究7では、「正しい文法・表現」に関するeラーニング教材を用意した。その結果、「正しい文法・表現」も向上した。

授業前後に、eラーニング指向性、ピア・レスポンス指向性、ブレンド型指向性を測定したところ、授業後、指向性は良い方向へ変化した。また、各指向性が高くて低くても、学習者の文章作成力は向上することが示唆された。

以上の研究成果より、「eラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型授業」は、学習者の文章作成力の向上に効果があることが示唆された。

#### 引用文献

- Gagné, E. D. (1985) *The cognitive psychology of school learning*, Glenview, Illinois : Scott, Foresman and Company (赤堀侃司, 岸学監訳 (1989) 学習指導と認知心理学. パーソナルメディア, 東京)